

1
KSKP

たびだち つうしん

出

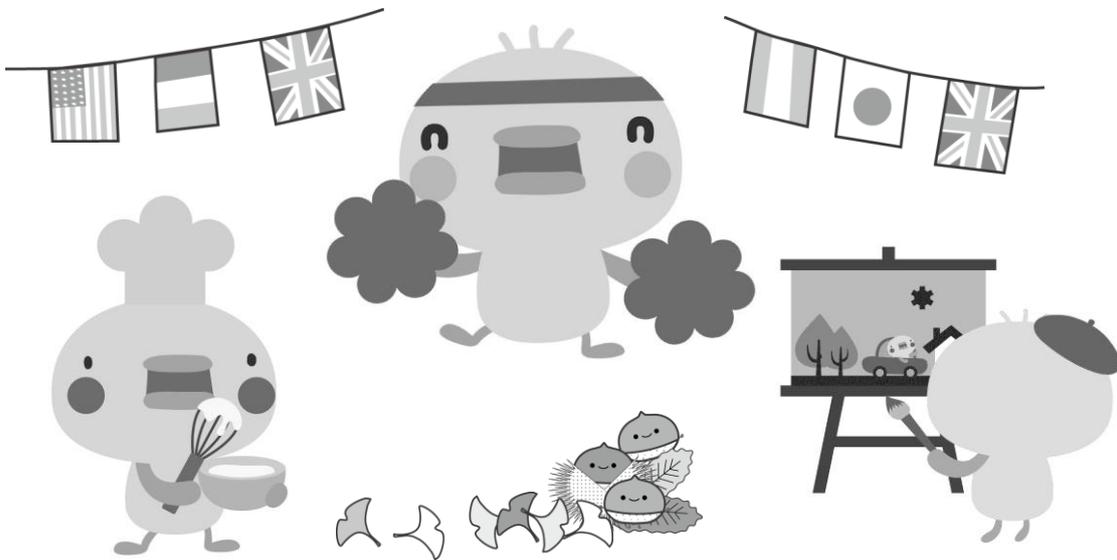
発

通

信

155 号

NPO法人 出発のなかまの会



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行

もくじ
目次

なんど げんてん もど 何度も原点に戻って	2
そうかい そうかい お NPO総会&どんどん総会を終えて	3
い みらくるクラブキャンプに行ってきました!!	4
しんぶん ごう どんどん新聞126号より	6
こそだ にっき スタッフ子育て日記	7
わたし ちいき く 私たちは地域で暮らしているんだ	8
しんにゅうしょくいんしょうかい 新入職員紹介	9
せきべつ 惜別	10
だいひょうり じたいにん だいひょうり じしゅうにん 代表理事退任のごあいさつ、代表理事就任のごあいさつ	11
かつどう 活動のあと	12

なんど げんてん もど 何度も原点に戻って

出発のなかまの会の立ち上げ（1979年12月）は、兵庫県の日本海側に近い山のなかにキャンプ場と「出発の家」を作ることから始まった。そこは大阪から離れ、自然のなかで自由に遊び活動できる非日常的な場である。当時、重度知的障害をもつ人達（以下「メンバー」と記す）にとって日常的な場である地域は、制度的にも、地域社会の理解も、かなり厳しいものだった。学校を卒業してからの行き場はほとんど無く、親を中心とした関係者で居場所を作り出していくしかない状況であった。会としての地域での最初の活動は、地域の活動拠点としての作業所作りから始めた。学校を卒業したメンバーの行き場だけではなく、地域との積極的なつながりを求めアピールする場としての作業所でアルミ缶回収、リサイクル活動、パン販売等をおこなった。次に取り組んだのが、地域での生活の場としてのグループホーム作りだった。親亡き後の場としてではなく、メンバー中心の生活の場として始めた。当時（1991年）のグループホーム制度はひどく、重度知的障害者はグループホーム制度の中に入っていなかった。それでも、会でグループホームを立ち上げた後、大阪市との話し合いで重度加算が認められるようになった。メンバーが、グループホームでの生活を続け、経験を重ねていくことによって、生活の質が高まっていった。たとえば、自分で物を選んで買う喜びや、旅行の行き先を自分達で決め、準備する楽しさ、旅行先での楽しさを経験し、習い事（習字・プール・韓国語教室など）に出かけ、習い事を通じての達成感を得た。地域の人との出会いもあった。

ガイドヘルパー制度の導入では、親でもなくスタッフでもない、新しい関係で出かけることになった。初めはトラブルの連続だったが、トラブルを通じて地域の人達と新しい関係ができていった。地域生活では、近所との普段からの挨拶、言葉がけがとても大切だ。生活が活発（ごく当たり前の生活を始めたという意味）になれば、障害者年金中心の経済的基盤では生活が難しく、かといって他に利用できる制度がないため、生活保護を申請することにした。メンバーのニーズに答えようとするれば、グループホームスタッフ中心の生活支援ではなく、個々の生活に合った支援が必要となり、グループホーム内でのホームヘルパー利用を申請した。それでも介護の足りないメンバーについては、生活保護のなかの他人介護を申請していった。グループホームの必要性が高まっていくなかで、次に入居を望んでいるメンバーへの体験入居制度を大阪市との話し合いで作らしていきなど、メンバーの地域生活が活発になり質が高まっていくようになるにしたいが、メンバーのニーズの後を追いかけるように新しい制度を作ったように思う。

わたし たびだち かい だいいちせだい だい いっせん しりぞ つぎ せだい だい ちゅうしん
 私たち「出発のなかまの会」の第一世代(60代)が一線を退き、次の世代(40代)が中心
 となつて「出発のなかまの会」を運営している。新しい若いスタッフも増え、悪戦苦闘しな
 がら頑張っているようだ。ただ、いつも思っているのは、私たちは何のために仕事を
 し、活動を続けているのか。それは、メンバー達が地域社会のなかで自分らしい暮らしを続け
 ていくことの一点にある。そのための日中活動の場であり、生活の場としてのグループホーム
 であり、メンバーのニーズに応じたヘルパー派遣をおこなう「ヘルプセンター・すきっぷ」
 である。

らいねん あたら きよてん たち だい わかもの だいなか こうはん
 来年には新しい拠点ができる。メンバー達も20代だった若者から40代半ば後半になつて
 くる。生活の質も変わってくると思われる。これからも色々なことが起こり続けると思うが、
 その度にメンバー達の「地域での自分らしい生活を続けたい」という原点に立ってほしいと思
 う。 (ヒロヒサ・O)

NPO総会&どんだん総会を終えて

ねん がつ にち ど かいかん かい いくのく だい かいいていじ そうかい
 2015年5月23日(土)に KCC 会館5階ホール(生野区)にて、第16回定時総会をおこないま
 した。当日は105名の出席(うち委任状出席者は13名)で、定款に定める総会として進める
 ことができました。

れいねんどお しゃしん つか じぎょうほうこく けっさんほうこく じぎょうけいかく よさん せつめい
 例年通り、写真、イラスト、グラフを使って事業報告・決算報告・事業計画・予算が説明さ
 れ、承認されました。役員を選任や、移転に向けて「事務所の所在地」の記載についての定款
 変更も承認されました。事業報告では、新しく建設する作業所をよりよいものにするために
 おこなった「作業所のサービスをよくする会議」の実施報告などがありました。2015年度は、
 これからの作業所の展開や、地域の誰もが利用できる居場所作りなど、さまざまな問題に
 積極的に関わり、地域の方々と連携して、活動を進めていくことが確認されました。

こうはん じりつせいかつ そうかい ほうこく はっぴょう れんしゅう
 後半は、自立生活センター・どんだんの総会です。メンバーたちは、報告や発表の練習を
 何度も繰り返して、総会に挑みました。事前に決めた役割を、みなさん見事にやりきりました。

ねんど こうえんかい がっこう じゅぎょう じぶん く しゅみ しごと
 2014年度は、たくさんのメンバーが、講演会や学校の授業で、自分の暮らしや趣味・仕事の
 話をしました。交渉、学習会、地域の事業所との交流をおこないました。2015年度は、

ひと おうえん こうしょう ちから あ
 『じりつする人を応援するぞ』『交渉がんばるぞ!!』『力を合わせてがんばろう!!』の3
 つの目標が決まりました。シュプレヒコールをみんなでした後、恒例の【どんだんの歌】を、
 メンバーのピアノ伴奏に合わせ大合唱し、総会は幕を閉じました。 (ヨシミ!)

みらくるクラブキャンプに行ってきました！！

9月5～6日にみらくるクラブのキャンプを行いました。連日続いた雨は上がり、ウキウキした気分、子ども 14名、親御さん 9名、スタッフ・ボランティア 20名、総勢 43名を乗せたバスが滋賀県高取山に向けて出発しました。

初日はアスレチックやそりすべりをして遊びました。そりすべりは滑りやすいように散水されていたので、服がどろんこになりながらも子どもたちは楽しそうに滑っていました。A君(5歳)は「31回滑ったで」ととても自慢げに話してくれました。夕食は『ナンカリー、じゃがいももち、寒天ゼリー』を作りました。ナンは火加減が難しく、はじめは少し焦げてしまいましたが、B君のお父さんが窯の絶妙な火加減をマスターしてくださり、とってもおいしくできました。食事の後はキャンプファイヤーです。

今年も火を灯すために“火の女神”が来てくれました。昨年も参加したC君(小学4年生)は「火の女神様、棒でやっつける！」と楽しみにしていました。

キャンプファイヤーが始まり火の女神の登場で雰囲気盛り上がりしました。火がついて、火の勢いと共にさらに盛り上がり、最後は「今日の日はさようなら」を歌い、今日が終わるのが少し寂しい気持ちになりながらも、楽しかったキャンプファイヤーがお終わりました。



2日目は3チームに分かれてハイキングです。朝からあいにくの雨。足が不自由なD君がどうやったら登れるだろうと悩んでいたスタッフを見て、Eちゃん(小学5年生)の口から「行けるやん。行くやろ？」と、心強い一言が出ました。一昨年の登山で暴風雨を経験しているからでしょう。スタッフが道の様子を見に行き、D君は歩行器ではなく背負子を使うことになり、いざ出発。A君は初めてのハイキングです。どんどん険しくなっていく道を見て「これ、ちょっと疲れるなー」と一言。途中で雨が降り、滑りやすいコンディションでしたが、めげることなく歩き続け、ゴールまでたどり着くことができました。D君(小学2年生)も初めてのハイキングです。お母さんは「ハイキングはしたことがなくて体調もどうなるかわからないから一緒に(下のコースへ)行きます。」と仰っていましたが、D君が担当の人や他の子どもたちと楽しく遊んでいる様子を見て、「私も上(上級者コース)まで行きます。Dは私が

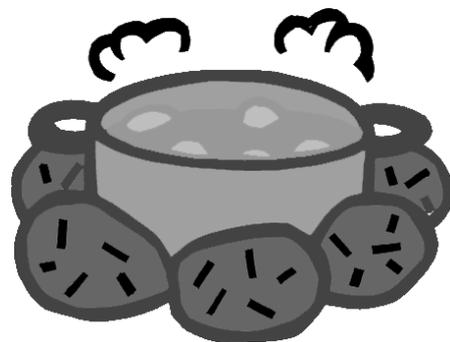
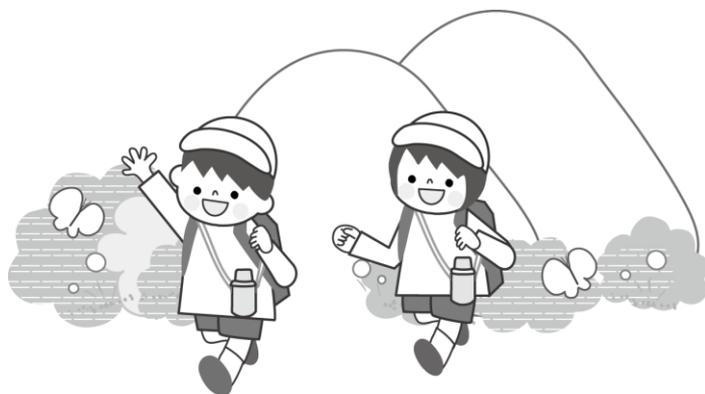
いなくても大丈夫そうなので」と言い、お兄ちゃんの F 君（小学 4 年生）と一緒に頂上まで登るチームへ。D 君は歩いたり背負子に乘ったりしながら、先頭に立つと「やったー先頭に立ったー」と大喜びでした。

初めてキャンプやハイキングに参加する家族が多かった今回は、子どもたちも親御さんも担当の人と仲良くなれるかな？」「ちゃんと歩けるかな？」等、不安でいっぱいだったと思います。しかし時間の経過とともに、子どもたちが担当の人や他の子どもたちと楽しそうに関わる様子を見て、不安は薄れていき安心して担当の人に任せることができたのだと思います。

親御さんは、我が子がどうしても気になってしまい、離れることが難しいものですが、今回は担当の人をはじめ、他の親御さんや子ども同士などたくさんの方が関わっていく中で「ずっと自分が我が子を見てなくてもいいんだ」と思えたことで、B 君のお母さんが帰りのバスで「自分の子ども以外の子と関わった事が良かった」と仰ったのではないかと感じました。障害の有無や年齢の垣根を越えて、自然と関わりが生まれたのも良かったなと感じました。親御さんたちが率先して片付けや皿洗い、夕食作りでは火の当番をしてくださって、みんなに役割があり本当に全員で作りに上げたキャンプだと感じました。

今回も多くのボランティアの方に協力していただき、ありがとうございました。たくさんの方から支えて頂いていることに感謝し、これからも様々なことに挑戦したいですね。

(コウジ・T)



©どんどん新聞 No.126 から抜粋して掲載しています

どんどん新聞 No.126



発行日 2015 年 9 月 28 日

発行者 自立生活センター・どんどん

大阪府生野区田島 1-10-30

tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



どんどん総会をしました。

2015 年 5 月 23 日 (土) 場所: KCC 会館

◆しっかり報告したぞ!

どんどんは、毎年 5 月の総会で、昨年度の活動報告(案)と今年度の活動計画(案)を発表します。当日の役割は、どんどん会議で決めています。本番が近づくと何度も練習します。

今年は、普段、どんどん会議に参加していないメンバーにもいろいろ協力してもらいました。H さんは今年度のどんどん役員を決めるとき、照れながら「O」カードを持ち、みんなの前に立ちました。

K さんは対市・対府交渉の報告で、黄色の T シャツを着て、「われわれは闘うぞー!」とシュプレヒコールをあげました。その声で、みんな去年の交渉のことを思い出し、一気に場が盛り上がりました。

昨年度の ILP おしゃれ編の報告のときには「おしゃれだと思える人集合!」と声をかけました。すると、真っ先に立ち上がったのは P さんです。I さんと一緒に前に出て、着ていた服を披露しました。最後は女性のメンバー全員とおしゃれな男性メンバーが集合し、まるで写真撮影会のような雰囲気になりました。

K さんは、2015 年度活動計画(案)を発表するときに O・T さんに質問しようと思いました。ところが聞いた相手は、なんと O・N さんだったのです! プロジェクターを見るために照明を落としていたので、双子の弟さんと間違えてしまったようです。最後に、T さんが、どんどんの歌を歌い総会は終了しました。伴奏でピアノをひいた T さんは、総会のために必死で練習をしました。

今年もどんどんは、学習会に ILP、交渉など計画がいっぱいです。今年もみんなで力を合わせて頑張るぞー!!

こそだ にっき
スタッフ子育て日記



息子むすこが産うまれて、現げんざい在かげつ8ヶ月、すくすくと成せいちよう長ちようしている。息子むすこは3850gグラムで産うまれた。周まわりから「大おおきな子こが産うまれて来きたね」と言いわれ、私わたしの中なかでは、無ぶ事じに産うまれてくれただけで涙なみだが止とまらなかつたのに、「大おおきな子こが産うまれた」と言いうのを看かん護ご師しさんから聞きいて、「大おおきな子こ?」と疑ぎ問もんに思おもった。「息子むすこはそんおなおに大まわきこいおのか?周まわりこの子こはそんおなお大まわきこくないのか?」と他ほかの子こ供どもを見みて自じ分ぶんの目めで確かく認にんをすすることもああった。

そして息子むすこが退たい院いんする時とき、他ほかの子こ供どもを見みると「確たしかに他ほかの子こ供どもと違ちがって息子むすこの方ほうが大おおきくてしわも少すくないな」と感かんじた。そんな息子むすこが風かぜ邪じやもひかず、海うみに行いったり、テニスコートに行いったり、お爺じいちゃんやお婆ばあちゃんに抱だっこしてもらっては泣ないたり笑わらったりしているのを見みて、「子こ供どもがいるだけで、こんなにも周まわりを幸しあせにしてくれる」と思おもうと、自じ分ぶんの中なかで「子こ育そだては楽たのしい」と思おもう反はん面めん、「自じ分ぶんの好おもいなことを我が慢まんして、息子むすこに尽つくして一いち人にん前まえの大お人なにしないといいけない」と、親おやの責せき任にんについて意い識しきするようにななった。

先せん日じつ、息子むすこが初はじめて風かぜ邪じやをひひいた。熱ねつはああまり高たかくなかつたが、せせきと鼻はな水みずがひひどく、寝ねるのも苦く勞らうしているのを見みて、息子むすこがここんなに辛つらそうにしているのに何なにも出できないのかと心こころの中なかで悔くやしかつた。

最さい近きんつかまり立たちをはじめた息子むすこは、机つくえの上うへの物ものを取とっては口くちに物ものを入いれて確かく認にんをしようとする。それを見みている私わたしは、心こころの中なかでひひやひやしながら息子むすこがひひっくり返かえらないか心しん配ぱいし、後うしろで息子むすこの背せ中なかをさえながら息子むすこが楽たのしんでいるのを見みて一いっしょで楽たのしんでいる。

(ワタル・H)



わたし ちいき く
私たちは地域で暮らしているんだ

さくねん ひ つづ ことし
昨年さくねんに引き続き今年ことしも、グループホームとんぼまるとグループホームきららとそのご近所きんじよさんさんを誘さそっての交流会こうりゆうかいを 8 月 28 日がつ にちにおこないました。

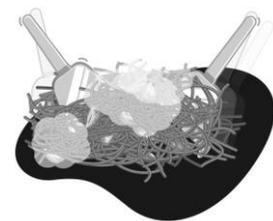
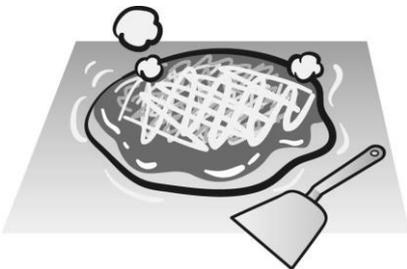
さくねん なが ことし や ぶるま
昨年さくねんはそうめん流しながでしたが、今年ことしは焼きそばやを振舞ぶるまいました。グループホームスタッフ、ヘルパーとで奮闘ふんとうしながら大きな鉄板おお てつばんで焼きそばやを炒めいただすとその匂においにつられて(?) 近所きんじよの方も顔かた かおをだしてくださりました。スタッフの子どもこ ともも加わり、今年ことしも賑やかな交流会きんじよ かい こうりゆうかいとなりました。

きんじよ かた まえ たけ
ご近所きんじよの方は「前は竹たけにそうめん流しながしとったな〜」と、昨年さくねんのことも覚えておぼてくださり、さらに「あの兄ちゃんにい、ぎょうさん食たべてるけど大丈夫だいじょうぶか?」と心配しんぱいして下さる方かたや、「この前まえ見たけどあの兄ちゃんにいは自転車じてんしゃの乗れるんやな〜」など、メンバーがご近所きんじよの方に知しってもらえていることを実感じっかんできた瞬間しゅんかんでもありました。

わ きんじよ しょうがくせい さんか いま
スイカ割りわでは近所きんじよの小学生しょうがくせいたちも参加さんかしてくれたのですが、今いままではメンバーの動きうごきや声こえなどに対して少し不安ふあんそうにみっていたのが、今回こんかいはそんなこともなく、ごく自然しぜんに同じ空間おな くうかんで楽しんでたのんでいたことがとても印象いんしょうてき的てきでした。

あ まえ
まだまだ、当たり前あのことが当たり前まえでないということが私わたしたちの暮らくしている中なかではたくさんあるように思おもいます。自分自身じぶんじしんも諦あきらめて限界げんかいだと決めてしまっていたのかもしれませきん。今回こんかいは地域ちいきとの関わりかかりの中でそんなことに気づきき、やっぱり地域ちいきっていいなと思おもわされました。

(ミノル・T)





しんにゅうしょくいんしょうかい
新入職員紹介



だいとうれいこ
大東玲子さん



がつ にゅうしょく
7 月に入職し、ヘルプセンター・すきっぷで猛勉強中の大東玲子です。

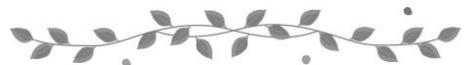
わたし う そだ いくのく さい す つうしん だいがく ふくし まな
私は生まれも育ちも生野区で、20 歳を過ぎてから通信の大学で福祉を学びました。ちょうどそのころ、すきっぷでヘルパーとして働いていたことから、顔なじみの方も多く、こうしてまた素敵ななかまと共に働けることを嬉しく思っています。

す
好きなことは、おいしいものを食べることに、読書、旅行、美術館に行くこと、ヨガをすることです。娘 2 人と絵本を読んだり、プリンセスプリキュアを見てまねっこをしたり、歌をうたったりするのも楽しいです。

みな
皆さんのことも、もっともっと知っていきたくて思っていますので、すきっぷにお立ち寄りの際はぜひお声かけくださいね(#^^#)



まえかわまさ や
前川匡哉さん



たびだち 共働作業所の階段で、三度も膝をぶつけてしまいました。どうもはじめまして、まえかわ
前川です。

ほんねん がつ
本年 6 月より、たびだち共働作業所で勤務させていただいております。膝が痛くても 40 過ぎの年にはかなわんと自分の心に素直に、そしてにっこりと、メンバーさん、スタッフに会えることを毎日楽しく思っています。作業所では毎日、いろんな発見があります。メンバーさん、スタッフとの交わりで気づかされる多くのことは、私自身の生活においても大変有意義な時間を与えてくれます。たとえ膝が痛くても、どんな困難があっても常ににっこりとしていられるという態度を、作業所という環境は与えてくれます。本当に毎日感謝です。

たびだち
出発のなかまの会につながるまで、いろんな方たちとの出会いがありました。多くの方たちとの出会いに心より感謝しています。これまでの出会いに感謝しつつ、またこれからの出会いを大切にしていきたいと思っております。いくつかの出会いがいくつかのつながりとなってひろがっていければ、面白そうだなと思っております。いくつかの出会いのためにも作業所で教えてもらった“にっこり”を大切にしたいと思っております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

せきへつ
惜別

ねん がつ にち かわばたとしひこ な わたし たいせつ ひと
2015年3月24日、川端利彦さんが亡くなられました。私 たちにとり、とても大切な人
でした。

せいしんはくじゃくじつうえんしせつ とうじ めいしょう しゃかいふくしほうじんいくの いえ げん いくの
精神薄弱児通園施設（当時はこの名称でした）社会福祉法人生野こどもの家（現、生野み
んなの家）の設立準備チームに加えていただきました。月川と村中も仲間として参加させてい
ただきました。川端さんは、日本赤十字病院の精神科医でもあり、積極的に学会でも活躍さ
れていました。自閉症児に取り組み「子どもの家」の顧問になってくださり、また奥さまの
農富子さんも一時スタッフとしていっしょに仕事をしたことも忘れられません。本当に長い
間、私 たちは川端さんと一緒に子どもたちと有意義な時をすごし、多くのことを学ばせてい
ただきました。

とうかい せつりつじ しょうがいじ
当会の設立時のパンフレットに、障害児としてでなく、ひとりひとりの子どもとしてみる
視点や、障害のある人と、その家族が地域であたりまえに生きていける共生の社会づくりの
大切さを書いてくださり、積極的に支援していただきました。

かわばた いりょうぶんや きょういく ふくし そうけい ふか おおさか
川端さんは、医療分野にとどまらず、教育、福祉についても、造詣が深く、大阪だけで
なく、全国にその人柄、考え方、行動に共感される方が多く、活動の輪を広げておられました。
さいわ わたし みちか あ ちからつよ しえん
幸いなことに私 たちは、身近でいつでも会え、アドバイスをいただき、力強く支援してい
ただけたことはとてもありがたいことでした。

かわにしし こ かつどう にほん てんかい こ しょうがいしゃ
川西市で子どもオンブズマンの活動を日本ではじめて展開されました。子ども、障害者、
こうれいしゃ けんりようご たいせつ うった
高齢者の権利擁護がいかに大切であるかということもいつも、訴えておられました。

しょうがいしゃ きほんてきじんけん みと ちいき い ほうりつ
障害者が基本的人権を認められ、地域であたりまえに生きていけるための法律ができた
とはいえ、まだまだ厳しい状況です。川端さんは運動することの大切さも理解され、常に障
害当事者とその家族への暖かい支援を続けてくださいました。出発のなかまの会は地域で誰も
はいじょ ささ ささ きょうせいしゃかい じつげん かつどう せつぎょくてき
排除されることのない、支え支えられる共生社会の実現をめざす活動をこれからも積極的に
つづ 続けていきます。

かわばた めいふく ところ いの もう あ
川端さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

だいひょうり じたいにん
代表理事退任のごあいさつ

このたび、急に体調を崩し、代表理事の重責を果たすことができなくなりました。これまで、多くの方々のご支援、ご協力をいただき、今日まで、何とか職責を努めることができましたことに感謝お礼申し上げます。

現在、当会では作業所、事務所の新築工事をひかえており、新体制のもと、活動の発展に積極的に取り組んでおります。

今後とも皆さまのご支援、ご協力よろしく願いいたします。

2015年9月16日 月川 至

だいひょうり じしゅうにん
代表理事就任のごあいさつ

このたび、月川至前代表理事の後任として、代表理事に就任することになりました。任意団体での活動時期を含めると約35年間、前代表理事をはじめ、諸先輩方が“すべての人が当たり前前に地域で暮らせる社会づくり”を目指して精力的に展開されてきた活動を受け継ぎ、“もっとも困難だと思われるところから取り組む”精神を忘れず、多くの市民の方々と共に歩んでいきたいと思っております。今後ともご支援、ご協力をよろしく願いいたします。

2015年9月16日 勝井 操

活 動 の あ と

- | | |
|---|--|
| <p>5/1 どんどん学習会(大阪都構想)
5/8 大阪都構想反対アピール行動
グループホームスタッフ全体会議/執行委員会
生野区自立支援訪問系事業者連絡会
5/9 起業セミナー(地域共生ケア生野推進委員会)
5/11 ちまたのコンサート(Kさんダンス出演)
5/12 理事会
5/13 生野区グループホーム連絡会世話人会
5/14 生野区自立支援訪問系事業者連絡会
Eプロジェクト会議(どんどん)
5/17 みらくるクラブ【木登り】(住之江公園)
5/19 執行委員会
5/20 食と農のプロジェクトをすすめる会
5/22 WAロン/障大連運営委員会/建築会議
5/23 NPO 総会・どんどん総会/HIT 理事会
5/25 Kさん応援会議/生野子どもの暮らし調査プレ実行委員会
事業所ネットワーク・自立支援部会合同部会
5/26 内部研修(発達障害勉強会)
5/27 Sさん IFP(個人将来計画)会議/作業所ミーティング
地域共生型福祉サービス運営推進協議会
5/28 Eプロジェクト会議(どんどん)
5/29 大阪府集団指導/松野農園映画会
(食と農のプロジェクトをすすめる会)
5/31 グッドスタート会議
6/2 Nさん東京旅行報告会
6/3 みらくる学習会
6/4 ILP(自立生活プログラム)講座(新生活応援編)①
6/5 グループホームスタッフ全体会議
内部研修(糖尿病)/建築会議
みらくるクラブ高取山キャンプ会議
6/9 Uさん IFP(個人将来計画)会議
6/10 Kさん IFP(個人将来計画)会議/執行委員会
生野区グループホーム連絡会
6/11 Tさん IFP(個人将来計画)会議
生野区自立支援訪問系事業者連絡会
6/12 Oさん IFP(個人将来計画)会議/成年後見推進委員会
6/13 HIT 総会
6/16 Eプロジェクト会議(どんどん)
6/17 食と農のプロジェクトをすすめる会
大阪教育大学講演(どんどん)
6/19 WAロン
6/22 生野子どもの暮らし調査プレ実行委員会
6/23 作業所ミーティング/内部研修(発達障害勉強会)
生野区子育て支援会議
6/24 地域共生型福祉サービス運営推進協議会
生野区学童期の子ども支援連絡会
6/25 ILP(自立生活プログラム)講座(新生活応援編)②
6/26 建築会議/障大連運営委員会
地域共生ケア生野推進委員会役員会
研修受け入れ(生野みんなの家グループホームそら)
6/27 知的障害者(児)がイッヘルバ-養成講座
(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
6/27~28 ソーシャルファームジャパンサミット in びわこ
6/29 Kさん応援会議
事業所ネットワーク・自立支援部会 合同部会
6/30 どんどん学習会(自転車勉強会)
見学(社会福祉法人ゆうとおんうえーぶ)
生野子どもの暮らし調査実行委員会
7/2 みらくるちっぷケース会議
Eプロジェクト会議(どんどん)
生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会
7/3 グループホームスタッフ全体会議/内部研修(総決起集会)</p> | <p>7/4 知的障害者(児)がイッヘルバ-養成講座
(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
7/5 Yさんチャング発表会
7/5~6 ビープルファースト定期総会
7/6 建築会議/新作業所備品・設備等配置会議
7/7 内部研修(発達障害勉強会)/緊急時対応整備担当会議
7/8 Kさん IFP(個人将来計画)会議/執行委員会
生野区学童期の子ども支援連絡会
生野区グループホーム連絡会世話人会
7/9 生野区自立支援訪問系事業者連絡会/見学受け入れ
7/10 Mさん IFP(個人将来計画)会議/Iさんケア会議/建築会議
7/10~12 北海道旅行
7/11 知的障害者(児)がイッヘルバ-養成講座
(生野区自立支援訪問系事業者連絡会)
7/13 対府交渉総決起集会・デモ行進
7/14 Kさん IFP(個人将来計画)会議
7/15 食と農のプロジェクトをすすめる会
生野子どもの暮らし調査実行委員会
7/16 ILP(自立生活プログラム)講座(新生活応援編)③
研修受け入れ(特定非営利活動法人マンボウの会)
7/17 WAロン
7/19 『福祉の就職総合フェア 2015 in O S A K A』に参加
みらくるクラブ【キャンプ事前活動】(ドリーム 21)
7/21 どんどん学習会(対府交渉)/作業所ミーティング
7/22 Mさんケア会議/地域共生型福祉サービス運営推進協議会
7/23 Iさんケア会議/Eプロジェクト会議(どんどん)
7/24 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会
7/26 Kさんドラム発表会
7/27 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
7/27~31 『関西☆なう』被災障害者家族との交流
7/29 Kさん IFP(個人将来計画)会議
生野子どもの暮らし調査実行委員会
みらくるクラブ高取山キャンプ会議
7/31 内部研修(食生活を見直そう講座)
緊急時対応整備担当(非常食点検)
8/2 みらくるクラブ【高取山キャンプ準備会】
8/4 『共振×響心 静なる熱情』絵画展へ作品出展
8/5 執行委員会
8/6 ILP(自立生活プログラム)講座(新生活応援編)④/建築会議
生野区自立支援訪問系事業者連絡会世話人会
8/7 大阪府オールラウンド交渉①
8/10 建築会議
8/12 生野区グループホーム連絡会
8/16 ゆめ風基金 20 周年記念イベント(Kさんダンス出演)
8/18 実習説明会(大阪 YMCA 国際専門学校)
8/19 食と農のプロジェクトをすすめる会
8/20 内部研修(発達障害勉強会)
生野区自立支援訪問系事業者連絡会
生野子どもの暮らし調査実行委員会
8/21 WAロン
8/24 理事会/大阪府オールラウンド交渉③
8/24~28 実習受け入れ(大阪 YMCA 国際専門学校)
8/25 作業所ミーティング
8/26 Kさん IFP(個人将来計画)会議
地域共生型福祉サービス運営推進協議会
みらくるクラブ高取山キャンプ会議
Eプロジェクト会議(どんどん)
8/28 Nさん IFP(個人将来計画)会議/障大連運営委員会
地域共生ケア生野推進委員会役員会
8/31 Kさん応援会議
事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
建築現場説明会</p> |
|---|--|

一 九 八 四 年 八 月 二 十 日 第 三 種 郵 便 物 認 可 発 行 人 関 西 障 害 者 定 期 刊 行 物 協 会 大 阪 市 天 王 寺 区 真 田 山 町 二 - 二 一 東 興 ビ ル 4 階 毎 月 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 の 日) 発 行

へんしゅうこうき
編 集 後 記

とほ 遠くにあってじわじわっと近寄ってくる
てんき とつぜん ちかよ 転機と突然やってくる転機。そりゃかさ
こと きじないよう にてんさんてん しっぴつしゃ 事もあります。記事内容も二転三転。執筆者
みなさま たいへん きょう こう の皆様も大変そうな今日この頃です。

(コウハイ・O)

編集人
特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)

Eメール infotabidati@oct.zaq.ne.jp
ホームページ http://www.oct.zaq.ne.jp/tabidati 700部